

ゴールドシュミット（ゴールドスミス）とロスチャイルド

ゴールドスミスは英語表記で、ドイツ語ではゴールドシュミットとなります。ゴールドスミスもしくはゴールドシュミット等はずっと個人名ではなく、**金細工師（金匠）**を意味します。いわば**屋号**なのです。

広瀬隆氏は『赤い盾』で、生き馬の目を抜くビジネス界に屹立する投資家の巨人ジェームズ・ゴールドスミスにスポットを当てた上で、**血縁関係を含めたゴールドスミス家とロスチャイルド家の緊密な関係**を明かしています。

「故国なき民として生存するための知恵を体得していった集団が、16世紀ごろにはドイツのフランクフルトに大量の移住をはじめた。その知恵とは、**貨幣の交換や金貸しを専門とする職業**で、こうした**金貸し業者のひとりがモーゼス・ゴールドシュミット**であった。ゴールドシュミットとは今日我々が使っている家名を表す姓でなく、**職業を示す店の看板**であった。16世紀には“**金貨扱い業者**”を意味する商売上の通称だった・・・モーゼス・ゴールドシュミット家は、中世のゲットーの中で大きく育ち、18世紀に入ってこの一族からひとりの巨人を生み出した。1744年にユダヤ人街148番地に誕生したと伝えられる人物・・・その男、**マイヤー・アムシェル・ロスチャイルド**」。（『赤い盾』）

広瀬隆氏は、**ロスチャイルド家がモーゼス・ゴールドシュミット家の一族の中から勃興した**としているのです。初代ロスチャイルドの**マイヤー・アムシェルは金細工師**だったとの情報があります。つまり**マイヤー・アムシェル自体がゴールドスミスの一人**でもあったのです。

英国のゴールドスミス、ドイツのゴールドシュミットなどは元から同族の可能性がありますが。少なくとも各国のゴールドスミス、ゴールドシュミットたちは密な関係にあったでしょう。彼らは“金貨扱い業者”であり「両替商」を営んでいたからです。つまり**欧州全体でゴールドスミス、ゴールドシュミットのネットワークを構築していた**はずなのです。そうでないと貨幣の「両替」は成立しないからです。このゴールドスミス、ゴールドシュミットのネットワークが、後に彼らが銀行業を立ち上げた際に、**その存立のための銀行カルテル**となったのでしょう。鉄の掟で秘密を堅持共有する組合です。**ある仲間の銀行が大量の金貨の交換を求められたとき、現物の金貨を融通し合える組合**でもあります。

血族関係があるかは不明ですが、ロンドンのゴールドスミスのビジネスでの「遺伝子」は確実にロスチャイルド家の中に生きています。